滞在記

松本尚子

1. はじめに

尼崎市の青年使節団として、8 月 30 日から 9 月 6 日にかけて姉妹都市であるドイツ・アウグスブルク市を訪問し、大変貴重な体験をさせていただきましたので、ここに報告いたします。

2. 食文化

渡航前から現地でのソーセージとビールをとても楽しみにしていました。到着後、初めての昼食でさっそくいただきましたが、キンキンに冷やして飲む日本のビールとは異なり、常温でも非常に美味しく、「流石はビール本場のドイツだな」と深く感動しました。 また、ドイツの食習慣も大変興味深いものでした。朝食はパンやヨーグルト、シリアルなど日本と同程度の量ですが、昼食は肉やジャガイモを中心とした料理がボリューム満点に出てきます。一方で、夕食は軽く済ませるのがドイツ流です。「夕食後は寝るだけでエネルギーを使わないため、少量で十分」という合理的と考え方を知り、夜もしっかり食べてしまいがちな私は見習いたいと感じました。

3. 交通

楽しみにしていたアウトバーンは、最終日の「ファミリーデイ」に体験することができました。ホストファザーに“Are you ready?”と聞かれた次の瞬間には、あっという間に時速 280km に達していました。速度制限がないことは知っていましたが、想像以上のスピード感でとても刺激的で貴重な経験となりました。また、街中では日本のトヨタ車を見かける機会が多くありました。現地の方からも「壊れにくい日本車」として非常に人気があるそうです。

4. アウグスブルクの人々

滞在中の 1 週間、アウグスブルクの街を巡る中で強く感じたのは、現地の方々の人柄の温かさでした。ショッピングモールやトラム（路面電車）内でのちょっとした会話からも、細やかな思いやりを感じることができました。

5. ホームステイ

私にとって今回が初めての海外渡航であり、初めてのホームステイでした。最初はとても緊張していましたが、お宅に到着すると手作りのウェルカムボードで温かく出迎えてくださり、一気に緊張がほぐれて楽しい時間を過ごすことができました。ホストファミリーは大変親日家で、日本語で挨拶をしてくださるなど、終始優しく接してくださいました。家族で過ごす時間には、街を歩きながらドイツの文化や歴史を教えてく

れたり、私の語学力に合わせた分かりやすい英語で会話をしてくれたりと、たくさんの配慮をいただきました。最終日のファミリーデイには、車で3時間ほどかかる湖へ連れて行っていただき、ハイキングを楽しみました。そこには日本では決して見ることのできない絶景が広がっていました。

6. 最後に

尼崎青年使節団の一員としてアウグスブルクを訪問し、ホームステイを経験できたことは、私にとって非常に有意義でかけがえのない時間となりました。初めて体験することや新しい発見の連続で、一つひとつの出来事が心に深く刻まれています。今回の姉妹都市交流事業に参加させていただけたことを、心から嬉しく思います。 本事業の実施にあたり、関わってくださったすべての方々に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。